

～今月の概要～

特集①) 首都圏新築マンション:『1億円以上』マーケットについて P.1～11

【1】23区:『1億円以上住戸』の供給傾向

- 【1】23区:価格帯別でみた供給エリアの傾向
 - 【2】都心7区:価格帯別供給商品(面積×間取り)の傾向・『1億円以上住戸』採用物件
 - 【3】他23区:価格帯別供給商品(面積×間取り)の傾向・『1億円以上住戸』採用物件
- ◇ 他23区:『1億円以上住戸』採用物件:イニシア町屋ステーションサイト

【2】23区以外:『1億円以上住戸』の供給傾向

- 【4】23区以外:『1億円以上住戸』採用物件

特集②) 『1億円以上検討層』の動向

～ 検討層プロフィールの実態・変化 ～

P.1～13

～23区物件:『1億円以上』検討層のプロフィール～

- 【1】1億円以上検討層の傾向 - 年齢・セグメント、居住形態、購入目的
 - 都心7区以外物件(他23区・23区以外物件):1億円以上購入者事例
 - ～『1億円以上』検討層:「業種」・「世帯年収」・「資金計画」～
 - 【2】1億円以上検討層の傾向 - 職業・業種、世帯年収、資金計画
- 【まとめ】

◇ 資料 - 世帯年収1,500万円以上比率が高いエリア
:23区、東京市部、神奈川、埼玉、千葉

～次号(2025年3月)の予定～

◆ 特集レポート

- ・(仮)春商戦(2025年1-3月)のマーケット動向
- ・(仮)2024年新築マンション入居者からみた購入実態

■ 2025年2月:特集レポートダイジェスト ■

特集①) 首都圏新築マンション:『1億円以上』マーケット研究

首都圏新築マンションの平均価格は、2023年に特定物件の影響もあり、8,000万円超に上昇。2024年も7,820万円と高水準を維持しており、マーケットでは「1億円以上住戸」の供給シェアが16%まで高まってきている。

本レポートでは、そうした「1億円以上住戸」の動向について、供給エリア・供給商品(面積×間取り)・採用物件の傾向などを分析。最近の動向について、確認しました。

特集②) 『1億円以上検討層』の動向

～ 検討層プロフィールの実態・変化 ～

特集②では、供給シェアが高まってきている「1億円以上住戸」について、『1億円以上検討層』のお客層属性や購入目的、資金計画、購入検討の経緯などを、長谷工アーベスト販売提携物件:23区来訪者の実態より確認。

急激な価格上昇がみられる前:約3年前(2021-2022年)からみた実態の変化や、直近の具体事例を踏まえて、今後の『1億円以上マーケット』について考えました。